

〈2019 年 吉徳のひな人形商戦・プレスリリース〉

例年になく早い出足
新年明けとともに賑わいを見せる雛人形商戦
お雛さまは女兒一人ひとりの「お守り」

新春 2019 年が明けるとともに弥生三月に向けて雛人形商戦の賑わいが始まります。
創業 308 年目を迎えた、人形の総合企業・吉徳 <https://www.yoshitoku.co.jp/> では
浅草橋本店をはじめとする全国の直営 12 店舗および各地の特約店にてお客様をお迎えし
ています。

昨年 12 月からの動きを見ますと、商戦は例年になく出足が早い印象があります。
「今年は特別な年」。それに合わせて、お雛さまが豊富に展示されているこの時期はじっ
くりと選べるから、というお客様の気持ちがそれを後押ししているようです。

三月三日、桃の節句の風習は古く中国を起源として、奈良時代に日本に伝来、平安、鎌
倉、室町、江戸時代それぞれの歴史文化を背景にひな祭りとなって今日に至っています。
そして時代とともに、雛人形は女兒の誕生を祝い、その健やかな成長と幸せを願い、厄
を払い、大切な子どもを守ってくれる「お守り」としての役目を持ち続けてきました。

吉徳ではこうした日本の生活文化に根ざした“ひな祭りの心”をこれからも末永く伝え
続けていきたいと考えています。

◎今シーズンの雛商戦のポイント

- ・ 商戦のメインターゲットとなる初節句の女兒（長女）は約 214,000 人。
平成 29 年（2017）総務省人口動態統計による出生数は 946,065 人（男児：484,449
女児 461,616）。この女兒のうち、長女は 213,613 人と発表されています。
- ・ 商戦のピークは 1 月第 3 週の末から第 4 週の末。
1 月 19 日（土）から 1 月 27 日（日）の 1 週間がピークと見えています。
- ・ 中心は 20 万前後の男雛女雛一对の親王飾り。
数ある種類の中でも、親王飾り人気は商戦をけん引しています。サイズは、住宅事
情など時代の流れを反映しコンパクト化が見られます。売れ筋価格帯は例年と変わ
りません。

- ・衣裳の本物志向はさらに進化。高級仕様の正絹金襴を用いた本式衣裳が主流。
母親世代の女性たちのファッション感覚は鋭く、衣裳へのこだわりは顕著です。
- ・衣裳着セットの伸長する中、たしかな伸びを見せるのが「木目込み」セット。
独特な伝統技法を用い、名匠が手作りする「江戸木目込人形」。木目込みならではの可愛い顔立ちと間口 50cm 程度のコンパクトさが好まれる要因です。
- ・お雛様選びの順位は 1 に「顔」、2 に「衣裳の色合い」、続いて「お内裏様の装束」。
「人形は顔がいのち」です。関東、関西ではそれぞれ顔の趣が異なります。顔こそは母親の好み色が濃く反映される最大のポイントです。
- ・お雛様選びをサポートする SNS メディアの充実
吉徳では購入の鍵を握る母親世代のニーズに応えるため、印刷物はもとより、例年にも増して SNS メディアによる情報提供に力を注ぎ、その内容の充実を図っています。

◎シーズンに華を添える吉徳の文化催事「おひなさま展」

■吉徳これくしょん「おひなさま展」

「吉徳これくしょん」は、人形研究者として知られた吉徳 10 世山田徳兵衛 (1896-1983) が昭和初期頃から収集した研究資料を主体とする日本有数の人形玩具ならびに文献資料等のコレクションです。今年も雛人形シーズンにちなみ、1 月 26 日 (金) ~ 3 月 3 日 (日) の間、浅草橋本店 4F の展示室にて吉徳これくしょん収蔵の江戸時代から現代に至る雛飾りなどの関連資料を展示する「おひなさま展」を開催します。享保雛や古今雛といった江戸時代の雛人形、木彫りのお雛様、芥子雛のほか雛道具や浮世人形 20 数点および関連資料 (文献・錦絵) を展示します。

以上